

研究促進のために

川越淳二

◇ いままでの村落社会学は対象村落を他からきりはなしに孤立したものと見て取扱つてきたことがおおいような気がします。これからはもうすこし空間的に視野をひろめて、村落はある地域の一部分として存在していることをもつと着實すべきではないでしょうか。ある地域の村落相互の関係や田舎町との関係など、積極的に関心をもちることが必要と存じます。ことに田舎町の機能などに充分考慮をばらわれないと、この村落社会学は家外はやく行きすまるのではないのでしょうか。

◇ 前号の山本豊氏の御意見にもありましたように、この研究会の趣旨からすれば、比較可能な調査技術の確立は何よりも急務と存じます。調査項目に關する統一的基本の決定などはそのオ一等ではありますまいか。いわゆる所采路表のための年報ももちろん好著ですが、日本の村落社会学の將來を考へ、この研究会の結束をよめる組織をおもうべき、こうした地味な研究こそもつとも重視すべきもののおもわれれます。同趣意をもつ方がありましたら、隨尾にふして下さるた

けのことばしたい意欲をもつています。

◇ 研究通信は印刷の関係で読むのに一苦労です。著者の御努力には多く感謝しており、手算の関係もあることは充分承知しておりますが、さきでさまで保存しておさたくおもいますので、できるだけはやく読みやすくしていただければ幸いです。
(愛知大学)

